

<研究主題>

学び合うことよさに気づき、学びを深める児童の育成
～どの子も「分かった」「できた」が実感できる授業を目指して～

1 研究主題について

本校のグランドデザインの知の部の目標「主体的に学習に取り組み、考えを交流することで『分かった』『できた』が実感できる。〈思考力・表現力・判断力の育成〉」の具現を目指し、以下の視点からも、引き続き取り組むことにした。

(1) 児童の実態

教えたことは素直に聞き、実践しようとする姿勢が見られる。しかし、学習態度に受動的な部分があり、自ら課題を解決しようとする意欲がやや低く、自分自身が分かったことや分からなかったこと、疑問に思ったことなどを相手に伝える力も弱い。また、友達の考えを聞いて自分の考えを見直したり、友達と考えを交流し合いながら考えを深めたりする学習が苦手な児童も多い。その原因として「わたしがつくる学習」という意識をもたせられなかったことや、どのように学び合いを進めるのか教師の想定が不十分だったことが考えられる。

これらのことから、学ぶことへの興味関心を喚起し、見通しをもって学習課題を解決しようという追究意欲をもたせ、友達と関わり合いながら粘り強く学習させることで、分かる喜びを味わわせることが大切であると考えた。

(2) 昨年度の実践

「学び合うことよさに気づき、学びを深める児童の育成」を研究主題として、算数科と国語科を中心に研修を進めてきた。昨年度の研究を通して、有効であった手立ては以下の4点である。

- ① 学習課題は、児童の「問い」や「願い」から設定する。また、学習課題を焦点化するためには、児童が必要感をもったときに情報を提示すること、児童の「問い」や「願い」を引き出し焦点化すること、個やグループでの気づきを全体で共有することが大切である。
- ② 国語の作文単元などでは、「単元の地図」を掲示することで学習の見通しをもたせることができたり、意欲の持続につながったりした。
- ③ 学んだ知識・技を掲示したり、学習を振り返ることができるノートを作らせたりすることで、既習の知識・技能を活用し、新しい規則性や法則等に気付かせ、知識を再発見・再構築させることが大切である。
- ④ 「は（速く）・か（簡単に）・せ（正確に）」を意識させることが大切。（「見方・考え方を働かせた思考」につながる。）

また、昨年度の研修で見えてきた課題は以下の2点である。

- ① 子どもの問い（意識）をみとり、主体的な学びにつながる学習課題の設定。
- ② 対話的な学びの場面とコーディネート。（教師はどのように学び合いを進めるのか、ペア・グループ・全体等での学び合う姿を具体的に想定しておくことが必要である。また、教師のマネジメント力も必要とされる。）

そこで、今年度も研究主題を継続し、有効な取組を共有し、学校全体で一貫した取組をしていくことが大切であると考えた。既習の知識・技能とのズレや友達との考えのズレから問題意識を生じさせたり、興味を喚起させたりして、課題を明確につかませ「わたしがつくる学習」という意識をもたせ

る。話し合う必要感をもたせたり、話し合う視点を明確にしたりしてから、ペアやグループなど学習形態を工夫しながら「学び合い」をする。その際、教師はどのように「学び合い」を進めるか、どこに着地させるかイメージして適切に支援をする。その後、全体で「まとめ」をする。さらに、自らの学習活動を振り返って、学びの良さを自覚し、次の学びへとつなげる主体的な学びの過程を大切にす

2 目指す児童の姿

主体的・対話的で深い学び	目指す児童の姿	具体的方策
	「問い」や「願い」をもつ 「〇〇はなぜか？」 「〇〇ができるようになりたい！」	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項と関連付けた提示の工夫 追究意欲を高める課題設定の工夫
	見通しをもつ 「〇〇を使って考えるとよさそう」 「〇〇で調べればできそう」	<ul style="list-style-type: none"> 説明パターンやキーワードの提示 補助教材の準備
	課題解決 「〇〇のようにすればできるんだ！」 「〇〇の新しい考え方が見つかった」	<ul style="list-style-type: none"> 学習形態（全体・グループ・ペア）の工夫 児童の考えを比べやすくする工夫 児童を関わらせるための教師の働き掛けの工夫
	振り返り 「〇〇したらできるようになった」 「次は〇〇をしたい！」	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りを書く条件の提示

3 研究内容

授業を通して「目指す児童の姿」にせまる具体的手立ての有効性を確かめる。

- (1) 課題提示・見通しにおける具体的方策（明確につかませる、問題意識をもたせる、意欲を高めるために）
 - ① 既有知識・技能を確認する。
 - ② 課題と既習事項とのズレから問題意識をもたせる。
 - ③ 多様な考えを引き出し、友達との考えのずれを生み出す。
 - ④ 実物や操作できる具体物を用いて提示することで課題を明確につかませる。
 - ⑤ 課題の中で、分かっていること、分からないこと、これまで解いてきた問題との違い、これから求めること見えそうなものという観点で整理しながら、見通しをもたせる。（難しいけど、頑張ればできそうだという見通しをもたせる。）
- (2) 学び合いにおける具体的方策
 - ① 児童の話したい、聞きたいという意欲が高まったところで学び合いを始める。
 - ② 話し合う視点を明確にしてから、学び合いを始める。
 - ③ ペアやグループなど学習形態を工夫する。
 - ④ ブロックなどの教具やホワイトボードや画用紙など、ペアやグループで考えをまとめたり、交流したりできるものを用意する。
 - ⑤ 考えがもてない児童は、友達の考えを聞いたり、見たりすることで自分の考えがもてるように支援する。また、分かったことを友達に伝える場を設ける。
 - ⑥ 友達が伝えたいことを積極的に理解しようとする「聴き合う」意識をもたせる。
 - ⑦ 学び合いの中で疑問が生じた場合は、必要に応じてその疑問を全体で共有する。
 - ⑧ 学び合いの中で、みんなで共有したいスキルを見出し、全体に広げていく。
 - ⑨ 全体での話し合いの後、ペアでもう一度説明し合うなどして理解を確かなものにする。
 - ⑩ 各学年の発達段階に応じた振り返りをさせる。

4 研究方法

- ・ 自分の得意教科，または研究したい教科を1つ決め，研究授業を行う。
 - ・ どの教科においても，児童同士の学び合いを充実させるための手立てを工夫する。
 - ・ 指導案の形式は「村上市の授業づくりハンドブック」（3ページ）を基本とする。
 - ・ 指導案検討会は，学年部＋研究主任で行う。（大研的なものは全員で検討会を行う）
 - ・ 授業者は，授業の前日までに検討・修正した指導案を配付する。
 - ・ 協議会は，2つのグループのKJ法で行う。よさを学び合うという視点で話し合う。
 - ・ 研究授業指導案と「実践を振り返って」を集約して，年度末に「研修のまとめ」を作成する。
- ※ 講演会などへ行って学んだこと，それぞれの先生が得意なことなど，教えていただきたいことなどを「ミニ研修」という形で実施する。